

学長室から

竹屋 元裕

「杏祭」に向けてカウントダウン

長かった猛暑の夏も終わり、爽やかな秋風を感じる頃となった。秋と言えば学園祭の季節。いよいよ今年18日（土）に第49回「杏祭」が開催される。今年のテーマは「Let's 杏 joy! ~カルテに刻め 皆の想い~」。カルテの様に一人一人の大切な記録として、学園祭への想いを心に刻んで欲しいという願いが込められている（と思う）。長い人生の中で学生時代にしか経験出来ないこと、その一つが学園祭である。この時期になると、私にも大学生時代に経験した学園祭の甘酸っぱい記憶が蘇る。学生諸君にとって、一生の思い出として残る、人生の1ページを彩るような学園祭となることを祈っている。

先日、杏祭実行委員長の西村衣純さんが学長室にやってきた。「杏祭」が迫ってきたので、レストラン「ピリア」のデジタルサイネージを使ってカウントダウンをしたいとのこと。若者は最新技術に飛びつくのが早い。熊本ではこれを“わさもん”（新しいもの好き）と言う。「杏祭」まであと10日、あと9日…と日替わりの動画を流すのだそうだ。わざわざ学長室に許可を得に来たのかなと思いきや、出演依頼だった。その場で10秒間の動画撮影。「杏祭」まであと2日という節目(?)の日に放映されるそうだ。乞うご期待。

熊保生の主張、mimicダンス、軽音楽LIVE（以上は前祭）、ゲストライブ、ファッションショー、歌コンテスト、抽選会などが企画されている。実は私の出番も用意されている（!?!）。

杏祭実行委員長の求めに応じてカウントダウン動画に出演した筆者「杏祭まであと2日」



の外壁に「KMバイオロジクスアリーナ」のサインが設置された本学アリーナ

アリーナ名称「KMバイオロジクスアリーナ」に

本学とKMバイオロジクス（熊本市北区、高橋洋匡社長）はこのほど、本学アリーナのネーミングライツ事業実施契約を締結しました。これにより、10月1日から10年間、同施設の愛称は「KMバイオロジクスアリーナ」となります。

同事業は、本学の収入増策の一環として企画されたものです。愛称設定による当該施設

の認知度向上や、パートナー企業の知名度向上による複合的な効果が期待されます。

既にアリーナ外壁面には「KMバイオロジクスアリーナ」のサインが設置されています。7日（火）にはアリーナ前で関係者が出席し、事業契約記念式典が執り行われます。

（NL編集部）

ネーミングライツで10年契約

連携強化に向け明治本社を表敬訪問

竹屋理事長
木下前理事長

木下統晴前理事長と竹屋元裕理事長らが9月11日(木)、明治本社(東京都)に松田克也・明治ホールディングス社長と八尾文次郎・明治社長を表敬訪問しました。本学は明治と令和4年12月に包括連携協定を締結しています。

この日は、竹屋理事長が大学概要、健康・スポーツ教育研究センターの松原誠仁副センター長が明治との協定に基づくこれまでの取り組みについて説明を行いました。また、今後に向けた取り組みとして竹屋理事長からは、腸内細菌のゲノム解析についても提案がなされました。一方、松田社長は、協定締結の際にくまモンが参加したことなどを振り返り、今後も健康、スポーツに関する連携を深めていくことで和やかに話が進みました。

一行は、永里敏秋・MeijiSeikaファルマ社長兼KMバイオロジクス会長とも意見交換。竹屋理事長がネーミングライツ事業に対するお礼を

述べたのに対し、永里社長からは、本学との研究は非常に重要だと考えており、引き続き連携を強化したい旨の話がありました。

(特命副学長 古閑陽一)



明治本社を訪れた竹屋理事長(中央)、木下前理事長(左から2人目)ら本学一行

パスキー使用や仮名化を推奨 情報セキュリティ研修会

本年度第1回の情報セキュリティ研修会が9月19日(金)、50周年記念館であり、約90人が本学情報セキュリティアドバイザー菊池健氏(桜十字病院参与)＝写真＝の講義を受けました。

菊池氏は、情報セキュリティインシデントの問題を機密性(不正アクセス、漏洩)、完全性(改ざん、損壊、消去)、可用性(機器の損壊、ソフトやデータ互換性の喪失)に3分類し、パスキーの使用やデータの仮名化、情報

機密性の格付けといった対策を、最近の動向や具体例を挙げながら紹介しました。

また、菊池氏は、デジタル化の進展により大量かつ多種のデータが容易に得られるといった利点を挙げる一方で、プロパガンダ、デマ、フェイクニュースなどにより「情報に対する信頼性が薄められている」現状も指摘。「各種の対策を地道に実施することが大切である」と語りました。(NL編集部)

閑話休題

高橋 元秀

カラス

カラスは日本で日常的に見られる鳥であるが、その行動には知恵と社会性が潜んでいる。冬季にはシベリアや中国東北部からハシボソガラスやワタリガラスが渡来し、温暖で餌の得やすい日本を越冬地とする。これは厳寒地を避けた柔軟な適応戦略の一例である。

彼らは単独でなく群れて行動し、高度な社会性を示す。鳴き声を使い分け、警戒や呼びかけ、餌場の共有など仲間と意思疎通を行う。特に朝夕の「カラス会議」では多数の個体が集まり鳴き交わし、活動報告や翌日の計画を話し合っているようにも見える。集団行動は情報交換や危険回避、縄張り調整を目的とし、人間社会に通じる構造を持つと考えられる。

また都市環境への適応も著しい。ごみ収集

の時間を学び、車を利用してクルミを割るといった道具使用まで観察されている。これらは学習によって獲得された行動であり、他個体を見て学ぶ「社会的学習」が可能な点も高い知能を裏づける。

渡りを通じて環境に順応し、仲間と協力し、知恵を駆使して都市に生きるカラスは、人間と同じく「文化」を持つ可能性すら示している。夕日に映える一群が金峰山と新市街のねぐらへと二手に分かれて飛んでいる。自宅の窓から目で追いながら、その知性に思いをはせていた。

Birds of a feather flock together.

(生物毒素・抗毒素共同研究講座特命教授)

医学検査学科3年次の集中講義が9月25日（木）スタートし、10月下旬からの2カ月半に及ぶ臨地実習に向けて準備が始まりました。

初日は、50周年記念館でオリエンテーションが行われ、上仲一義学科長が、「実習先に行く前から臨地実習はスタートしている。ひとりひとりが大学の代表という自覚をもって行動してほしい。困ったことがあったら遠慮なく先生たちに相談してほしい」とエールを送りました。

その後行われたマナー教育では、富田文子教授がこれまで実習先の病院から届いたコメントをもとに、挨拶や返事、報告、情報共有の大切さを講義。社会人としての基本的な姿勢や患者への配慮に関しての話になると、うなずきながら話を聞く学生の姿も見受けられました。集中講義は10月24日（金）まで行わ

れ、学生たちはマナーや個人情報セキュリティに加え、これまで修得してきた知識と技能を再確認します。最終日には臨地実習認定式も行われます。（入試・広報課）



臨地実習を控え、マナー関連の講義を受ける医学検査学科の学生たち

学んできた実技や知識を再チェック

理学療法学専攻3年

10月上旬から3週間の臨床実習に臨むリハビリテーション学科理学療法学専攻3年次生に向けた実習前集中講義が9月22日（月）から26日（金）まで実施され、73人の学生が現場でのマナー知識や技能のチェックなどで本番に備えました。

現場で実際に患者と密にかかわるのは、学生たちにとって今回の実習が初めて。集中講義は実習の前後に設けられています。4日間にわたった実習前の集中講義では、これまで学んできた実技や知識を再確認するだけでな

く、現場で必要な感染対策やマナーなどについても学びました。

学生たちは10月6日（月）から、検査とその結果の考え方についての3週間の臨床実習に入り、終了後は実習の振り返りと報告会を兼ねた2日間の集中講義に臨みます。臨床実習は11月上旬から6週間の日程で計画されていて、学生たちは治療技術に重きを置いた実習を行います。

（NL編集部）

DX・IRの展望巡り意見交換 九州ルーテル学院大と研修会

本学と九州ルーテル学院大学の共催によるDX推進とIR促進のための研修会が、9月18日（木）、1500講義室Mで開かれ、両大学の取り組みや課題などについて活発な議論が交わされました。

研修会は、両大学におけるDX・IRの現状を紹介するとともに、直面している課題や今後の展望について意見交換を行うことを目的としています。DX推進に関して、説明に立った九州ルーテル学院大学の久崎孝浩教授は、教育系DXを中心に現状について報告。本学は平緒泰弘事務局次長が、業務改善を通して始めた発注改善プロジェクトについて、業務改善に向けて始動させた発注システムが、ペーパーレスやリードタイムの大幅短縮といった効果をもたらしたと報告し、今後の課題と対応についても話しました。

一方、IR促進のための研修会では、本学の水本豪教授が、「IRは問題を見つけるだけでなく、本学にしかない魅力や強みを見つけるものであってほしい」と話しました。九州ルーテル学

院大学は、久保幸貴講師が現状を報告するとともに、実際に教員から上がった声も紹介すると、参加者はうなずいたり、メモを取ったりする様子も見られました。

両大学の発表後は質疑応答の時間が設けられ、DXとIRの課題について、活発な意見交換が行われ、会場には時折、共感の声も上がっていました。（入試・広報課）



DX推進のための研修会でも務めた水本教授

高校生に測定結果をフィードバック



熊本西高のラグビー部員に筋力トレーニングの指導をする学生たち

8月下旬に本学で体力測定を行った熊本西高校ラグビー部と熊本中央高校男子バドミントン部（いずれも熊本市）の部員に対するフィードバックを、9月18日（木）に熊本西高、19日（金）に熊本中央高で行いました。

県内高校生アスリートを対象とした「熊保スポーツプロジェクト - for Youth-」の一環です。本学から本田啓太講師、宮崎宣丞助教、嶋村剛史助教の3教員と、リハビリテーション学科理学療法専攻（スポーツリハビリテーションコース）に所属する学生7人、大学院生2人が両校を訪問。2日間とも、前半は本田講師と宮崎助教が前回行った測定結果を示しながら講義を行いました。後半は、スポーツリハビリテーションコースの学生が中心となって、測定結果に応じた実技指導を実施。学生にとっても、「下肢のストレッチ」や「筋力トレーニング」に関してより実践的な学びの場となりました。（健康・スポーツ教育研究センター 中村祐貴）

後期も頑張って！ 1年次生に向け履修登録相談会

ピア・サポ通信

1年生を対象とした「ピア・サポーターによる履修登録相談会」を9月24日（水）昼休み、キャンパステラスで開催しました。

1年生からは、「どんな講義内容か」「テストはどうだったか」などの質問が多くありました。自分も1年生のころ不安いっぱいだったことを思い出し、先輩方にいろいろ教えてもらったなど懐かしくなりました。先輩後輩が気軽に話せて楽しい雰囲気での相談会を行うことが出来ました。今回、私たちが伝えたことが少しでも参考になっていたら嬉しいです。

後期も講義が多くあり大変ですが、みんなで乗り切って充実した大学生活を送ってほしいです。また、今回の相談会で改めて1年次の基礎科目の大切さを実感しました。私も負けないよ

うに国家試験に向けて勉強を頑張ります。

（ピア・サポーター＝作業療法学専攻4年岡村真来）



ピンクのユニホームを着て後輩の相談に乗るピア・サポーター

銀杏アラカルト



実際に体を動かしながら講義を受ける高校生たち

■5時間の「大学生生活、満喫」県立水俣高校（水俣市）の生徒81人が9月25日（木）、本学を訪れ、各学科、専攻の模擬授業を受講しました。このうち、理学療法学専攻の久保下亮准教授は、関節について実践を交えて講義。生徒たちは関節の構成要素やストレッチの種類といった理学療法

学の基礎知識を学び、複数のストレッチを実践しながら、効果を確認していました。訪問の最後に在学学生の話聞き、本学の魅力をしっかりと吸収した生徒たち。約5時間の「大学生生活、を楽しく、有意義に過ごしていました。

（入試・広報課）

「書き抜く」「考え抜く」を目標に

1年次生を対象とした全学必修科目「アカデミックスキルⅡ」が9月25日（木）の医学検査学科クラスを皮切りにスタートしました。ライティングに重点を置き、学科ごとに「書き抜く」「考え抜く」ことを目標にした指導を行います。

ガイダンスにあたる各クラス（学科）の第1回授業では、センター所属の学生指導員が、学科ごとにビデオメッセージを寄せ、書くこと、考えることの大切さを説きました。

2日（木）の医学検査学科第2回授業では、センタースタッフの安部悠介さんが生成AIをテーマに講話。学生の間でも急速に利用経験者が増えている現状を踏まえ、その利点を認めながらも、「安易な使用は『考える力』を損ねる」と、注意を促しました。引き続き、センター上級指導員の松本渉夢さん（理学療法学専攻4年）が登壇し、「授業の中で小さな成功体験を積み重ねていけば、自信につながります」と、自らの体験を踏まえエールを送りました。

同授業では、今後、「このとりのゆりかご（赤ちゃんポスト）」をテーマに、グループ討議やアウトライン作成などを経て、最終的に800字程度の論証型文章の作成を目指します。この間、先行学修を続けているリーダー学生が受講生をサポートしていきます。（アカデミックスキル支援センター 渡邊元生）



「生成AIを使ったことがある人」という安部さん（写真奥）の問いかけに、多くの学生の手が挙がりました



学科を超え、受講生にエールを送るセンター上級指導員の松本さん

インフォメーション

週間行事予定（10月6日～10月14日）

10/7（火）	KMバイオロジクス株式会社とのネーミングライツ契約記念式典
10/11（土）	総合型選抜（リーダーシップ型）試験日

※週刊NEWSLETTER303号は10月14日（火）に配信します